

全佛婦

No. 138
2024年新年号
1月1日発行



公益社団法人
全日本仏教婦人連盟

全佛婦138号

令和6年1月1日 発行日

編集委員 編集人

花岡真理子 発行人

発行所

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟

〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷

4-5-10-205

03-5772-0677 電話

<http://jbwf.jp> URL

info@jbwf.jp MAIL

本多良之師 表紙画

年頭によせて



公益社団法人全日本仏教婦人連盟
会長 東伏見具子

新年おめでとうございます。

昨年十月二十七日に「全日本仏教婦人連盟第七十回記念大会」が盛大に帝国ホテルにて執り行われました。

笹川理事長御導師のもと尼僧法団の皆様によります法要が厳修されました。引き続き裏千家大宗匠様によります大変ありがたい講演を賜りました。

天の一角から
見下ろして見れば

問題は
はずい分

変わって
くる

お言葉を胸に刻み大いに反省もし勇気もいただきました。

大会を機に仏婦としての一步を踏み出した訳です。大会の挨拶では三つのテーマを述べました。少子化問題、男女賃金格差の問題（お寺ではどうなのか）、地球沸騰化の問題です。仏婦の更なる発展の為には若い世代の人々を育てていくことが不可欠です。皆が力を合わせて取り組んでいかなければなりません。

昨年の夏頃から海外の観光客が戻りはじめ私の住んでいる京都は、どこに行っても大きなスーツケースを携えた外国人、レンタル着物の外国人、レンタサイクルで移動している外国人、全てにコロナ禍で避けてきた密の世界になっています。

人々は、コロナ禍の中自分時間を取り戻し家族や近所の人々、自然等と親しむ楽しさを感じたのではないのでしょうか。コロナ中には「静かな京都が戻ってきた」という言葉をよく耳にしました。

人に置いて行かれないように、また遅れないようにと「他人時間」を気にしながら生活していた自分がコロナ禍で気づいた「自分時間」の大切さを失わないようにしたいと思います。

司馬遼太郎氏の言葉に

「物事は両面から見ると。それでは平凡な答えが出るにすぎず智恵は湧いてこない。今ひとつとんでもない角度のつまり天の一角から見下ろすか、虚空の一点を設定してそこから見下ろすかしてみれば問題ははずい分変わってくる」とあります。

この言葉も今年私が挑戦しようと思っている言葉です。皆様はどのように考えられますか。

今年甲辰。辰は「振るう」という文字に由来しており、自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる状態を言う、と辞書にあります。十二支の中で唯一空想上の生きものです。辰年のキーワード「変革・激動」が示すように時代は動くのでしょうか。

皆様にとりまして幸多き一年となりますように心よりお祈り申し上げます。

合掌

Happy New Year!
2024



聞

今こころを

おいて

どこへ行くこうと

するのか

愛知専門尼僧堂・特別尼僧堂堂長

青山俊董 老師



青山俊董◎あおやましゅんどう
昭和8年、愛知県一宮市に生まれる。5歳の頃、長野県塩尻市の曹洞宗無量寺に入門。15歳で得度し、愛知専門尼僧堂に入り修行。その後、駒澤大学仏教学部、同大学院、曹洞宗教化研修所を経て、39年より愛知専門尼僧堂に勤務。51年、堂長に。59年より特別尼僧堂堂長および正法寺住職を兼ねる。現在、無量寺東堂も兼務。昭和54、62年、東西靈性交流の日本代表として訪欧、修道院生活を体験。昭和46、57年、平成23年インドを訪問。仏跡巡拝、並びにマザー・テレサの救済活動を体験。昭和59年、平成9、17年に訪米。アメリカ各地を巡回布教する。参禅指導、講演、執筆に活躍するほか、茶道、華道の教授としても禅の普及に努めている。

平成16年、女性では二人目の仏教伝道功労賞を受賞。21年、曹洞宗の僧階「大教師」に尼僧として初めて就任。明光寺(博多)僧堂師家。

第1講

たった一度の命をどう生きるか—— お釈迦さまの仏法 教えを聞くアンテナ(2)

昔から、「親の言う通りにはならないけれど、親のする通りになる」といいますが、「どういう家庭で育った娘さんかなあ、法隆寺へ来て、この娘さんに出会えてよかったなあ」という感動が溢れてきました。

法隆寺そのものは千五百年の歴史があります。けれど、どちらかというと過去形です。それに比べて、今一瞬の合掌は、こちらは生演奏ですね。一瞬の生演奏の方が、よほど感動がある。

「この娘さんに会えてよかったなあ」という思いが心に残っておりまして、「ユーキャン」からわたしのCDを出すにあたって、

ないけれど、『女性自身』の連載を全部切り抜いていた。『女性自身』ではわたしの名前も出ますから、ユーキャンからCDを取り寄せて聞いていたら、その中に「法隆寺で娘さんに出会った」話が出てきて、「これ、わたしっ!」と驚いたようです。ご主人から「そんなバカな」と言われたけれど、もう嬉しくて嬉しくて。それでその「ユーキャン」の方に問い合わせをして、今日の講演にいらっしやうた。

「親の生きる姿勢」というテーマで、ふと、この話を入れました。法隆寺で、こういう娘さんに出会った。親の言う通りにはならないけれど、親のする通りになる。そのような話をしました。

その「ユーキャン」のCDを、この奥さまが聞いたのですね。涙を流しながら語ってくれました。

「小学六年生、修学旅行、法隆寺の南大門の前で集合写真を撮るべく急いでおりました。一人の尼僧さんが歩いておられました。七色に輝いて見えました。『この方を追い越すわけにはいかない』と思ったけれど、一人とどまる

まさに不思議な再会でございました。お土産に丁寧なお手紙が添えてありました。その手紙の中に、

「一瞬であろうとも、大事な方をキャッチするアンテナを育ててくれた両親に感謝あるのみ」

というひと言が書いてありました。すばらしい一言であり、なかなか言える言葉ではありません。

くり返し申しますが、命の重さにおいては全部平等です。しかし、その命の重さに気づく働きをいただいているのは人間だけ。さいわいにして気づくことができる人間の命をいただいているも、その命の重さを説いてくださる教えに出会わなければ気づけない。

さいわいに、その教えに出会うことができ、その教えを説く人に出会うことができても、アンテナが立っていないと聞けない。さいわいにアンテナを立てることが

こともできず、『ごめんさい、お先にご無礼します』と思わず合掌をした。ニッコリほほ笑んで合掌を返してくださいました。その合掌とほほ笑みをもう少し拝んでいたいと思ったけれど、それも許されず、心を残して走りました。それからずっとずっと、ずっととお会いしたいと念じ続けました」

と言うんですね。それでたまたまその頃、わたくしが週刊誌の『女性自身』に書いておりました。それを見つけたのでしよう。

しかしながら、あの瞬間の顔と、この『女性自身』とが同じかどうかはわからない。わから



でき、その人に会い、その教えが聞ける。こんな幸せはないと思わなければなりませんね。

その教えを聞く耳があるうちに、聞いて実践する身体があるうちに、一刻も早く聞いて、たった一度のやり直しのできない人生の今こころを、すこしでも悔いのない生き方をしていく。最高の生き方を、幸せな生き方をしていく。教えに導かれながら。それが、大事なことでないでしょうか。



文殊・普賢両菩薩さま

「ほとけさまのサイン」

編集・発行 天台宗出版室

浦井正明師：「阿弥陀さまはなぜ九ツもの印相を示しておられるのか。お不動さまはどうして怖いお顔をして、剣などをお持ちなのか。本書はこうした疑問にお答えするために書いたものである。(中略) 仏さまは本来拝まれるために造られるのである。いいかえれば、私たちが仏さまに何を願ひ、仏さまはそれにどう応えてくださるのかということなのである。」

著者略歴

【浦井正明(うらいしやうみやう)】

昭和12年東京生まれ。天台宗僧侶。東叡山輪王寺門跡門主・寛永寺貫首。慶應義塾大学文学部史学科卒業。東叡山現龍院前住職。寛永寺執事長、台東区教育委員会委員長、台東区文化財保護審議会委員等を歴任。『もうひとつの徳川物語 将軍家霊廟の謎』等著書多数。

図2



図1

大仏師 山高龍雲作

ほとけ
さまの
サイン
Sign

文殊菩薩さま

文殊菩薩さまは、観世音菩薩さまや地藏菩薩さまと共に、よく知られた菩薩さまです。

皆さんは「三人寄れば文殊の知恵」という諺をご存じだと思います。これは普通の人でも、三人寄れば、まるで文殊菩薩さまの智慧のように素晴らしい考えが浮かぶものだという意味です。

この文殊菩薩さまと普賢菩薩さまを左右に従えたお釈迦様のお像を釈迦二尊と呼びしています。

その場合、文殊菩薩さまはお釈迦さまの智慧の働きを表わし、同じように、普賢菩薩さまはその行願(願いと行い)を表わしておられるのです。

そして、大切なことは、この智慧(知)と行願(理)とが決して別なものではなく、もともと釈迦さまにおいては一体のものだということです。それを表すのが「理知不二」という言葉です。

さて、文殊菩薩さまは、もともとサンスクリット語のマンジュシリというお名前だったので、音写して文殊師利(曼珠室利)、略して

この菩薩さまは、何時でも、何処にでも現れて、広く仏の教えを説かれる菩薩さまでもあります。

特に、わが天台宗のもっとも大切な經典である『法華経』によると、霊鷲山で法華経を説いておられるお釈迦さまに向かって、この菩薩さまは、法華経の教えを信じ、実践する人を、私が必ず守ってあげますと約束して下さったのです。

なぜ動物に乗るの？

ところで、文殊菩薩さまや普賢菩薩さまがお乗りになっておられる動物はいったい何を意味しているのでしょうか。

ごぞんじの通り、獅子や象は動物の中の王様ともいえる存在です。他の動物たちより遥かに優れた力を持ち、畏れを知らない動物ともいえるでしょう。

象が近づけば、ほかの動物はこれを避けて道を譲りますし、獅子が吼

文殊菩薩さまと呼びするので。また、意味をとって、妙吉祥とか妙徳とも申し上げますが、これらはほとんど使われておりません。

ごく普通の文殊菩薩さまのお姿は、右手に剣、左手には蓮華の上に載せた経箱(梵篋)やお経の卷子(巻きもの)をお持ちになって、獅子の上の蓮台に坐っておられるお姿です。(図1)

もちろん、お経は文殊菩薩さまの智慧の源ですし、また剣は利剣とあって、煩惱を断ち切る智慧の剣なのです。

普賢菩薩さま

普賢菩薩さまにはいろいろなお姿がありますが、もともともよく知られているのは、白象上の蓮台に坐って、静かに合掌しておられるお姿です。(図2)

この菩薩さまは、もともとサンスクリット語でサマンタ・パドラというお名前なのですが、それは「すべてのことに優れている」という意味なのです。それを意識して、私たちは普賢(普ねく賢い)菩薩さまと呼びするので。

えれば、動物たちは皆畏れて遠ざかります。

というわけで、象や獅子は、文殊菩薩さまや普賢菩薩さまのお持ちになっておられるお徳やお力、いいかえれば、どんな困難もおそれず切り拓いていく智慧や、優れた願いを実行していく力を象徴しているわけなのです。

僧形の文殊さま

文殊菩薩さまには僧形(聖僧)文殊といって、とても変わったお姿があります。まるで年をとった高僧が座っておられるようなお姿です。比叡山延暦寺蔵の僧形文殊像は天台宗の食堂や禅寺の禅堂に祀られますが、それはそこで修行(食事作法も修行の一つ)しているお坊さんたちの師として、静かに見守っておられるお姿なのです。

中国の唐という時代に、文殊菩薩さまが智慧と戒律の師として尊崇され、そうしたことから、僧形の文殊さまをお祀りして、お坊さんたちの日常生活の手本にするようになったのです。

70th
ANNIVERSARY
Japan Buddhist Women's Federation.



全日本仏教婦人連盟
第70回記念大会



祝舞「石橋」花柳基氏



第70回記念大会
公益社団法人全日本仏教婦人連盟



「乾杯」
華嚴宗大本山東大寺長老
印度山日本寺第6世竺主
北河原公敬師

10月27日（金）全日本仏教婦人連盟第70回記念大会が帝国ホテル東京にて来賓、会員あわせて160名の参加をいただき開催されました。

第1部では、御導師笹川悦導師、式衆全日本尼僧法団のもと、法要がとり行われました。続いて裏千家15代家元千玄室氏より「祈りの思い」と題してご講演を頂きました。

第2部は、花柳基氏による祝舞「石橋」で始まり、笹川悦導師のお言葉、東伏見具子会長の挨拶、ご来賓の全日本仏教会理事長里雄康意師の祝辞に続き、華嚴宗大本山東大寺長老北河原公敬師

の乾盃の発声で和やかに懇談会が開始されました。国際仏教興隆協会理事長中村康雅師のインド・ブッタガヤ報告の後、光明施療院の活動の、菩提樹学園の園児と母親の母子衛生教育を支援することを目的に全日本仏教婦人連盟より350万円の目録が国際仏教興隆協会に贈呈されました。

お食事や交流の合間に花岡眞理子理事長が挨拶、最後に本多端子大会実行委員長が謝辞を述べ和やかな雰囲気うちに無事に閉会いたしました。静岡仏教婦人会の方々が仏婦の歌を歌ってください、会員、参加者来賓の皆様も一緒に歌い、皆さんと心が温まるひとときを過ごす事ができました。

「目録贈呈」
(公財)国際仏教興隆協会理事長
中村康雅師

公益社団法人全日本仏教婦人連盟70回大会、まことにおめでとうございます。

継続は力なり、大難なりといわれますが、70年、結成当初の志を繋ぐ歴史を刻まれ、ご苦労も多々ありだったと思いますが継続されて、素晴らしいことだと思います。

私は昭和40年代初め頃より、当方の先代のお供で仏婦さんの大会にときどき参加させていただ



全日本仏教尼僧法団
理事長 笹川悦導



きました。仏婦さんは女性の地位向上と、社会進出のために、その結束力と意気込みは素晴らしく、初代会長大谷智子様、山本杉様はじめ、船口照子様、李方子様、山口貴美子様、他役員の皆様がたのお姿が残っております。中でも女医であり、参議院議員でありました山本杉様、威厳があり、女性の社会進出、地位向上を訴えておられ、怖かった印象があります。

そんな時代も遠くなり、法人としての事業目標に向かって一丸となって取り組んでおられるお姿に、敬意を表し、見習わなければという思いです。

女性の立場で社会や家庭生活の中に、仏教精神をつちかい、慈悲の心、人の気持ちがかかる人間育成を目的とされておられますので、多様化が重視される時代に入りましたが、道を外さないよう仏教婦人の立場で、教化をしていただきたいと思います。

私共の顧問であり、愛知専門尼僧堂の堂長青山俊董老師は、男性がいらっしゃる前では申し上げにくいと言いながら「女性が本気



公益社団法人全日本仏教婦人連盟
会長 東伏見具子

今日は、全日本仏教婦人連盟第70回記念大会に皆様には大変お忙しい中、御臨席賜りましたこと、心より感謝申し上げます。



私が、仏教婦人連盟会長を引き受けましたのは、ちょうど10年前、第60回記念大会の時でした。折しも、公益社団法人として全日本仏教婦人連盟が発足の年でもありました。諸先輩方の並々な御努力により全仏婦の今があるわけですがその頃と比べて大きく変わっていることの一つは、少子化が加速していることだと思えます。また、地方の過疎化も進むことによって、全国のお寺の存続が大きな問題となっていることです。全仏婦でもこれから若い人たちを育て継

続していくことが本当に課題になっていくと思えます。

10月9日にハーバード大学教授のクラウディア・ゴールドディン氏が、女性では3人目になるノーベル経済学賞を受賞されました。膨大な歴史的資料を分析し、女性の雇用率や男女間の賃金格差が生じた要因を分析したことが評価されました。彼女は日本について語っている言葉がありました。10年から15年前と比べて女性の就業率が大きく高まったことを称賛しつつも、昇進機会のある正社員よりもパート等の短時間労働者が多いことを問題とされています。また、G7がまとめた男女間の賃金格差のデータでは、日本の女性は22・1%、男性に比べて低く、それはG7の中で最も格差が大きかったということです。私たちがお寺における女性の役割は大変大きいものと思えます。さて、どのような賃金格差になっているのか、ちょっと興味があるところがございます。

さて、私たち仏婦では現在「美しい地球を未来の子どもたちに



公益財団法人全日本仏教会
理事長 里雄康意

第70回全日本仏教婦人連盟記念大会に際し、一言ご挨拶申し上げます。私ども全日本仏教会は、加盟している全国約75,000カ寺の寺院が、宗派の垣根を越えて団結

し、仏教界が現代社会の中で起こっている様々な問題に深く関わり、取り組めるよう精進しております。

全日本仏教婦人連盟様におかれましては、平素より私ども全日本仏教会の活動に対し多大なご理解とご協力を頂いておりますこと有難く御礼申し上げます。

現在、全日本仏教婦人連盟役員の皆様には、本会の理事、代議員、総務財政審議会委員、支援検討会委員ほかWFB（世界仏教徒連盟）顧問や国際交流審議会委員、文化庁の宗教審議会委員など、多岐にわたる分野でご活躍を賜っております。

また貴連盟は、様々な社会福祉活動を積極的に行われておられます。

今年、開山50周年を迎えますインドの日本寺では、貧困状態にある現地の住民を対象に医療と防疫の奉仕を行う医療施設「光明施療院」の運営、心の支えとなる「写経運動」、あおぞら奨学基金による全国青少年教化協議会様と共働の学用品の支援活動、日

残すために」を、スローガンにしてボランティアやその他各種のいろいろな活動を行っております。しかし、地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来したと言われ、私たち人間が引き起こした気候変動の重大さを一人一人が認識しなければならぬと思います。今年の夏の猛暑は



本仏教保育教会様や全国青少年教化協議会様とウクライナから避難してきた中高生への支援など、国際的な人道支援や青少年の情操教育運動など、取り上げきれないほど多くの社会貢献活動をなされておられます貴連盟の活動に対し、公益法人としても仏教徒としても、深い敬意の念を表します。

最後になりますが、全日本仏教婦人連盟様のますますのご発展と、本日ご参集の皆様の一層のご発展を願いご挨拶とさせていただきます。

本日はお招き頂きまして誠にありがとうございます。



公益社団法人全日本仏教婦人連盟
大会実行委員長 本多端子

第70回記念大会には、全国より大勢の方々にご参加いただき誠にありがとうございました。

笹川悦導理事長御導師のもとに

世界のいたるところで災害をもたらしました。会う人ごとから先の地球はどうなっていくのでしょうか。どうなりますか心配ですね。ほとんどの人が危機感を持っています。でも、私たちがさ、どのように何をしたらいいのかという問いかけに答えられる人は本当に少ないです。私もその一人ですが、日本は脱炭素の実現を2050年までにすると宣言しています。脱炭素のウェブサイトを開きましたら、一般に私たち国民がどのようなことをすればいいのか詳しく記されておりました。ぜひ皆様もそれを開いていただきたいと思えます。そしてその内容をこれからも広く皆様が発信していただきたいと思えます。次の第80回記念大会に向けて、仏婦として具体的な道筋をつける活動をしなければいけないと思っています。

今後ともより一層、仏婦の活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

僧法団式衆による厳かなご法要が執り行われました。

記念講演には「祈りの思い」と題し、ご多忙の中、千玄室大宗匠氏に百年のご生涯を通した蘊蓄のあるご講演を賜り、また花柳基氏にはお祝いとして、『石橋』を華やかに舞っていただきました。

あわせて帝国ホテルのご馳走も心身ともに豊かに、意義深い大会とさせていただきます事、誠にありがとうございました。

これからも、仏婦会員一同「集いの力を信じ」仏法弘通に尽力いたしたく存じます。





1945年4月27日から出撃が
始まり、私の仲間のほとんどが
特攻戦士になりました。私は特攻
出撃の前に、松山の基地で「待機
命令」の中、今日まで生き残って
しまいました。この10月21日は明
治外苑で学徒出陣の大神行進をいた
しました。関西では平安神宮。80
年前を思い出すと私だけが生き残

り、本当に申し訳ない次第なので
すが、私はいつも手を合わせて戦
友皆の冥福を祈っております。も
う百歳にはなりましたけど、私の
背後には、沖繩の海に突っ込んだ
421柱の各大学選抜の戦友がお
ります。靖国神社に行くたびに皆
が私を呼びかけているような。「千
や何してんや、頑張れよ」その一声
で私はこうして生かさせていただ
いて、今日はありがたい事にこの
仏教婦人連盟で講演までさせてい
ただいています。

元々私の祖先は千利休、明治維
新までは武家であり茶家でもあり
ました。従いまして私は幼少の頃
から武家作法と茶家作法を母親ま
た父親から厳しく仕込まれたわけ
であります。特に宗教につきまし
ては、日本にとつては一番大事な

ことでございます。どんな人でも、
まず第一に宗教的意識というも
の。これは信じる、信じないは別
として、宗教的な意識というもの
は日本人にとって非常に大事な意
識であります。そして次には歴史
的な意識。日本の国がどうやって
できてきたか。そして、現在この
ような状態になっている日本の背
後を皆で考える。第三番目には知
的要素ですね。どんな方々であつ
ても知的な一つの意識というもの
がある。この意識が土台になり、
人間は生かさせていただいている。
生かさせていただいていることを、
人間はありがたいと思ひ、感じな
ければならないと思うのです。

神道、大和の国が出来ました時
から、日本はご承知のように古事
記に記されてあるとおり神の国に
なる。神の創られたこの島国を見
そこにありがたく住んでいる、と
『万葉集』の最初に舒明天皇がお歌
いになった。
「大和には 群山あれど とりよろ
ふ 天の香具山 登り立ち 国見
をすれば 国原は 煙立ち立つ
海原は 鷗立ち立つ 美し国ぞ 蜻

(記念講演)

祈りの思い

裏千家15代家元
千玄室



世間は今紛争だらけでございます。
1947年にアインシュタインが心理学者のフロイトに「どう
して戦争が地球上から無くならな
いのか」と手紙を出し、返事でフ
ロイトは大きな指摘をいたしました。
「人間はもともと欲どおしい、
二人おればどんなに仲が良くても
必ず喧嘩をする。家の中でも兄弟、
夫婦、親子の争いがあるだろう。
人間が生きている限りは自分とい
うものの欲、その我欲によつて争
いが生じる。」一国の指導者になり
ますと、北朝鮮の金総書記に
しても、あるいはロシ
アのプーチン大統領、
中国の習近平国家主
席など、一国を治め
る間にどんどん大き
な権勢欲や権力を身
につけてゆく。そこで国
と国とがぶつかり合い、戦争
になってしまふ。ロシアがウクラ
イナを襲撃する。もともとウクラ
イナはロシアの領土でありました

から、話し合えば戦いにはならな
かった。しかし譲り合いというこ
とはできなかった。また今イスラ
エルはハマスによる攻撃と拉致さ
れた人質の救出のために、パレス
チナに攻め入り戦果を収めている
が、同時にガザでは多くの人たち
が亡くなっております。

1943年10月21日、私ども大
学生は、突如として「文系の学生
は全員20歳になった者は徴兵検査
を受ける」命令が出ました。私た
ち文系の学生は8万人ぐらいいた
と思います。大学で悠々と勉強し
ておりました私どもは即座に徴兵
検査を受けさせられ、結果陸軍と
海軍に割り当てられ、私は数少な
い海軍に選ばれました。しかも海
軍では予備士官の試験の第一選抜
に合格して、飛行科で土浦の海軍
航空隊を受けた後、徳島の航空隊
で操縦訓練、偵察訓練を受けまし
た。海軍少尉を任官すると同時に
猛烈な実戦訓練を受けたわけであ
ります。

私が茶家の息子であるというこ
とを皆も知っております。入隊す
る時に茶箱を持っていきました。
私の祖先の千利休が織田信長、豊
臣秀吉に仕えました時、戦陣に全
球的なお点前ができる一つの作法
を作り上げました。小田原の陣で
は、野点の席を作つて花を生け、
鎧兜の武士たちはお茶をいただく
ときは一切武器を置き、一碗のお
茶を皆ですすめ合いながらいただ
き、そしてまた合戦に出ていった
のであります。私もそれにならない、
父が作りました陣中茶箱を持つて
きたのです。それでいつも訓練が
終わりますと皆が「千ちゃん、お
茶にしてくれや」と頼んできます。
一碗のお茶を私が点で、配給の羊
羹とともに代わる代わる戦友達が
お茶をいただく。一碗のお茶をい
ただきながら、皆「生きて帰れたら、
お前の茶室で、茶をのましてくれ
よ、茶を教えてくれよ」と、口々
に言いました。

トルストイの『戦争と平和』中で主人公は人間には徳行（徳の行

幼少の頃から私は朝、父が利休居士と歴代をお祀りしている仏間へ参りまして、父の読経する後で合掌しながら読経しました。それが終わりますと、庭の御社で父と一緒に柏手を打つ。中学はキリスト教の学校で同志社中学へ入れさせられました。私は嫌でたまらなかつたのです。「なんで私の家は禅宗であり神道であるので、キリスト教の学校に行かないといけないのか」。父が、「それは私も同志社の出身で、あなたの祖父、13代目の円能齋のお弟子に同志社を創られた新島襄先生、八重さんがいました。この二人がお茶に執心で、特に八重さんは女性として最高のお茶の位を持たれ、そして明治維新の婦女子のためのしつけ教育として、当時は女学校の女紅場でお茶を取り入れた。そのような関係があつて、あなたは宗教の色々なことを学ぶことができる。それが無いのだったら、どうして生きていくのか」。

キリスト教を学びだした1年生から5年生までの間、月曜日から金曜日はチャペルに入って讃美歌を歌い、パイプオルガンを開いて牧師の説教を

鏡を見るでしょ。その鏡に対しておはようございますと言つてごらん下さい。そしたらどんな方々にでもおはようございますという言葉が自然に出てきます。また寝る時も顔を洗い、歯を磨くでしょ。その時に鏡を見て自分にご苦労さん、明日も頑張ろうと一言を声かけてやったら、寝付きもよくなる」と厳しく言いました。私は今日までずつとそれをやっております。

人間は自分というものを時々忘れてしまうのです。自分の存在価値、居場所、この二つは人間には大切なものです。自分の存在価値、今自分は何をしているのだから。何をしたいのか、自分の仕事を継いで、少しでも人様のためになるように手を差し伸べていくこと、こういうことができなければ自分の存在価値はないぞと。色々な存在価値を考

えます。

トルストイの

『戦争と平和』中

で主人公は人間には徳行（徳の行

活でしたので、おかげさまで私はキリスト教の何であるかということも知った。今でもパイプオルガンの内証にどういふことがあるかということとを学んでおります。軍隊へ行くまでにキリスト教という一つの思想、神はどこにあるか、その御霊、それを自分自身が感じなければいけないと、父に教えられる。

そして仏教、特に禅宗の厳しい一つの修行と同時に、各宗派のお寺との関係が深まっておりますので、幼少時代は様々なお寺へ伺わせていただいた。父母のお供をして、お献茶、お汲み茶をお寺でまた神社で、皆父がご奉仕し申し上げた。父の献茶をしている後ろから手をつけて、敬虔な祈りのもとに神に仏に恩情を捧げられることを、私は身をもって体得した。一碗のお茶は非常に大きな和というものを創り上げている、たった一碗のお茶でも、その一碗のお茶を一生懸命仏様、神様に捧げ、そしてその後私たちがいただく、これが利休の教えなのです。私は生きて帰って何をすべきかを思いました。

い）、悪行（悪い行い）の二つがあると訴えます。徳行は勤勉で、誠実で、そして全てに感謝をすることです。悪行の方は妥協、怠け者、明日でいいか、明後日にしようか、もうやらなくてもいい、という気持ちになり、最後はやり残してしまふ。また迷信妄信もある。人の言うことに耳をかさない。馬耳東風とはよく言います。人の言うことを聞くことよって自分が色々なことを思い返すことができる。この徳行と悪行その二つを、私はトルストイから習ったような気がします。

私たち人間は様々なことで苦しんでいます。唐の時代に龍牙和尚という和尚がおられました。その和尚に、こんな山の中で何しているのかと問うと、返事が「木食草衣心似月一生無念復無涯若人居何処住問青山緑水是我家」です。私の好きな詩です。この詩を聞いたときは、私はああ、こういうような人になりたい。木の実を食べて、草の衣をつけて、皆がどう思うかなど、何も考えない。そうすれば自分の心は月のよ

私が大徳寺で修行した時に後藤瑞巖という私の師匠が「ええか、あなたは戦争で生きて帰ってきた。多くの戦友が亡くなった。自分だけ生き残ったという思いをいつまでも持つな。亡くなった方のためにも代わり生きていくのだから、その分まで皆さん方の分を世のために努めなさい」と厳しく言われました。僧堂に入って一番びっくりしたのは、軍隊の時は命令で動けばよくて、何でも命令で動いたら間違いない。死に行くと行け」と言われれば死に行く。でも僧堂は何していいのか、雑巾を持つてうろろしていたのです。私のちようど10カ月前に入っておりました、もう亡くなつてしまわれた盛永宗興という、兄弟子の横



うに澄み切つていくだろう。一生は涯もなくまた念も無いのである、どこに住んでいるのだと言われても、私の住んでいるところはこの青山緑水であると。

私は世界各国に行つて皆に言うのです。お茶を点つて、お茶碗が丸いでしょ、織部とか色々形が変わつたものもありますけど、相対的にお茶碗は丸いです。丸い地球なのです。それを手のひらにのべて中を眺めなさい、緑のお茶が抹茶が点つている。地球と緑、お茶は自然共生を教えているのです。何回も繰り返していただくというのではないのです。正面をよけていただく。正面をちよつとよけることは自分が半歩下がるということ。顧みて、そしてお茶を地球と共に緑を大事にいただく。そのよくな気持ちでお茶をいただいたら、自分の心は穏やかな気持ち、利休が教えた和敬清寂、和して敬いそして清らかな気持ちを持っています。和敬は単なる口だけの和ではない。人間誰しも持っているその自然と共に生きるという気持ちを大切に、繋がりを持つ、どんな人

へ行きますと「あっち行け」と無視される。何をしても良いのかわからず、作務の時に庭で「なんでもい」と草を抜いていましたら、後ろにいた後藤瑞巖老大師が、「今抜いている草をどう思つて抜いている？」と問われた。何にも答えられなく呆然としていましたら、手招きされて部屋へ連れて行かれて、「草抜きなんかしたことないでしょ。あなたが今抜いている草も生きていくんだよ。その草に対して、ありがたいという気持ちを持つて抜きなさい」。ありがたいという言葉初めて私は身に感じました。有り難いのではない、難いのだ。有り難いのだ。この言葉は本当に私の胸に響き渡りました。

私は一年間僧堂で修行し、その後お茶の道に勤しんで、今日まで参りました。色々なことを父、母から教えられました。小学生の時に母はいつもお寺に本願寺さんの前でもまた知恩院さんの前で合掌し、神社の前では柏手で拝んでおります。私も一緒になつて拝殿をする。また母は「仏頂面して学校へ行くのはよくないです。朝起きた時に

も差別区別をしてはいけないと。利休はそれを示しました。どんな人でも偉そうにしてはいけない。謙虚でなければいけない。リスクト、敬う、どんな人でも、差別区別がない。ディスクリミネーションがあつてはいけない。

お茶室はすべて人間を裸にして、そして同じ一服のお茶をいただく。これが利休の壮大な教えです。清らかな気持ちになつていきましよう。勧め合う、「いかがですか。お先」この言葉こそ人間生活の中で一番大事な、人間同志の繋がりや絆をつくつていく言葉です。心から「いかがですか。お先」これを日常生活の中で皆が守つていけば、本当に日常生活も楽しい祈りの世界に変わつていくわけでありませう。私たち人間は生きていく間は、祈りの世界の中にいなければならぬ。朝に夕べに神仏に対して祈るといふ、そうした心があつてこそ初めて、人間は穏やかな日常生活が暮らしていけると存じます。時間が参りましたので、これでお話を終わらせていただきます。どうもご清聴ありがとうございました。



静岡県仏教婦人会

静岡県 仏教婦人会県大会を 終えて

清水大会実行委員長
笠井照子



秋の気配を感じる十月二十日、皆様のご協力のもと、大会が開催できましたこと、心より御礼申し上げます。

仏教婦人会より県大会の委託を清水仏教婦人会に頂いたのは、平成三十年のことでした。

当初、仏教婦人会の理念に基づき

①み仏の正しい教えのもと
②つといの力を信じて

この二つを柱として会合を進めてまいりました。しかし、コロナの影響により中止となり、その後時を経て令和四年八月に委員会を再編成し、大会に相応しい会場を、そして仏教徒としての本質を忘れず、分かり安いお話をしてくださる講師を探しました。

そしてむかえた大会当日には、長野市・長谷寺よりお迎えした岡澤先生により「釈迦涅槃図」を拝しながらの絵解きがなされました。この一枚の絵図に、どのよ



うなことが描かれているのか、お釈迦様のご生涯と臨終の様子を物語って頂きました。

先生のお話からは、私たち自身の生き方や死について考えさせて頂き、家族との別れを迎えた時のことを思い出し、涙がとまらなくなりました。岡澤恭子先生、誠にありがとうございました。

そして、本大会の構成を大きく変えた事について書き記します。

まず、講演と清興の事について考えましたが、恭子先生の穏やかな口調による講演のみで充分と判断いたしました。

次に仏婦の大会では〈静岡県〉大きな改革となった事があります。それは、婦人部の活動・大会等は、通常女性のみの参加で行うということでしたが、時代の流れを感じる中でその考え方を捨て、男女を問わず多くの方々に声をかけ参加して頂けるように計画を練ったことでした。今まで参加できなかった男性住職、男性檀信徒の参加を可能とした

ことは大きな改革であり大成功であったと思っております。

最後に、素人集団の私達による構成、演出、準備と手際の悪さがございましたが、同じ目標に向かい、宗派の違う者達が垣根を問わず和気あいあいと成しとげることができたこと、感謝・感謝しか言いようがありません。

誠にありがとうございました。

真宗大谷派
真楽寺
「かわうそ堂」

仏様の 眼差しも ただく



副住職の
勸山法紹師



今現在、子どもの7人に1人が貧困に苦しんでいます。さらに今年ばかり親世帯の貧困率は44.5%と、ひとり親の2人に1人が貧困と先進国で最悪の数値となりました。今回は静岡仏教婦人会の勸山悦子副会長のお寺である沼津市の真宗大谷派真楽寺の活動を取材いたしました。真楽寺副住職である勸山法紹師が運営する食堂「かわうそ堂」をご紹介します。

「かわうそ食堂を始められた経緯は？」

2019年の6月からこの活動を始めました。翌年からコロナ禍になり、学校給食という確実に食べられる一食が無くなり、朝から何も食べられない子が出てきました。半年ほど月1回食堂をやっておりましたので、迷いなくお弁当に切り替えて提供することができました。コロナとずっと伴走して来ような3年間でした。

食堂を始めた経緯はお寺でのフードドライブです。静岡県仏教婦人会、沼津市の仏教婦人会と青年仏教会が実働部隊で、沼津のお寺から食べ物を集めてフードバンクに届けることを3、4年やっていました。そのご縁で、もともとは自立相談支援センターの入っている「サンウェルぬまづ」の調理室で食育を目的にした子ども食堂が、消防法の規制などで継続が困難になってきたため、寺で引き継ぐことになったのです。現在は一人親会の親子を対象にNPO法人のサポぬまの小和田さんから毎月呼びかけていただいています。

「どのような形で運営されているのですか？」

最近ここから1キロの沼津の海岸で、生まれた赤ちゃんが焼かれるという事件がありました。その子は生まれてから殺されて2日後に焼かれた。親は20歳と24歳です。僕はたまたま寺に生まれて両親もいれば、祖父母もいる、そういう中で子育てをさせていただいています。檀家さんや地域の方の出入りもあり、多くの人の目のなかで私も育まれてきたし、子どもも育てています。縁あって子供を授かって、孤立してしまっていると感じることが僕でもあります。

かわうそ堂では、続けていくためには誰でもどうぞというわけにもいきませんが、無理のない範囲でお味噌汁、おかずそしてご飯があればと手探りしながらやっています。親やスタッフ、NPOのサポぬまの人たちなど、子ども食堂というより大人も多い。子どもが食べられないということは、親も食べられないということですが、実際うちの食堂には皆、親と来ます。だから僕は「子ども食堂」という言葉は使わないのです。だって親も困ってるんですよ。

「かわうそ堂って面白い名前だと思いました。どんな意味があるのですか？」

鳥羽水族館に行った時に人気者のペンギンの向かいの誰も見ていない水槽で、「かわうそ」が、餌をガツガツと食べて落ち着かずに行ったり来たりしてたのです。なんだか僕にそっくりだと思いました。たまたま僕は料理が好きですし、美味しい物が食べたいという執着もあることを「かわうそ」のちよっとまぬけなイメージを使って表現しています。何にも苦じゃないし、楽しくて仕方がない。それは僕の煩惱です。煩惱をエネルギー

孤立している方は本当に多い。そういう中で何が起るのでしょうか。煮詰まってしまうと虐待そして……。彼らのことは本当に他人事ではありません。

かわうそ堂では食前にお経をあげます。先日その時に、自分の赤ちゃんをこれから殺そうとしている人が隣にいたら、その子を僕が育てます」と言いました。その子自身も今というヤングケアラーみたいなものです。自分だって本当は親に甘えたいのでしようけど、殺される子供の側に立った言葉をその子から聞いて、僕は驚きました。

浄土真宗や浄土宗がとても大事にしている3つのお経のうちのひとつに、子殺しのお経があります。子を授からなかった王様とお妃様が子供が欲しいあまり、生まれ変わって王の子供になると予言された仙人が死ぬのを待たずに、仙人を殺します。そのうえ王は仙人の呪いを恐れて、生まれてきた赤ん坊までも崖から落とします。

としています。

ですから、かわうそ堂には僕の嫌いな梅干しは絶対に出さないのです(笑)。偏食の子の母親から「好き嫌いはするなって注意してください」と言われるのですが、この献立はそもそも僕の好き嫌いが反映されているので無理に食べなくていいと伝えていきます。子供には、食育よりも、色々な人から声をかけられ、ここにいれば可愛がってもらえる、いじめられないし迫害もされないという安心感を感じてほしい。縁があって来た子たちをほっとけない、きちんと向き合っていきたいと思っています。

「食堂を始めることはなかなか簡単なことではないと考えてしまいましたが、実際はどうだったのでしょうか。」

実際この食堂をやりたいと言った時、周囲に色々心配をされました。僕がやる必要があるのか、寺の安全は？ 食中毒の時は？ 保険は？ 等々。やらない理由なんていくらでも見つけられます。世間の論理では、しない方が正解で、筋が通っていて、確かに説得力がありました。僕はそのことを深く考えずにやってみたかった。

私たちの普段の食事を何十人分作るだけ、それを一緒に食べるだけだと。作って食べさせてあげるのではなく、みんなで食べる、食事の席に招くぐらいいの感覚です。特に「子ども食堂」をしたかわけではないのです。毎日皆一人でそれぞれご飯食べてるんだから、近所のじいさんばあさん、檀家さん、一人親の親子も皆一緒に、「仏さまの前で飯を食う」ということをしたかった。

「実際に食堂に来る親子と接していてどんな事を感じられますか。」

毎月来てくれる親子と話している一番感じるの、互いに息苦しい、息が詰まるといふ事です。毎日一対一で、常にしんどいのです。昔は子どもたちには、親兄弟や友達以外にも沢山の人と接する機会が、日常的にありました。近所のおじさんおばさんたちも、普通に気にかけてくれていました。人間関係も濃い関係、薄い関係、斜めの関係、いろいろあったと思います。この関係の濃淡とかグラデーションの中で、子どもたちも家族や親と、バランスを保ちながら向きあっていけたのだと思

縁があって
来た子たちをほっとけない。
きちんと向き合っていきたい。
子ども達に安心感を
感じて欲しい。





僕がしてあげる側ではなく、僕も一緒に助かる側なのです。

枝に引っかかって助かった赤ん坊は、大きくなって親に殺されようとしたことを知り、父王とお妃を幽閉しました。幽閉されたお妃の元にお釈迦さまが現れると、お妃は自分が子供を殺そうとしたことも忘れて、いったい私に前世でどんな罪があつてこんな悪い子を産んだのでしょうか、とお釈迦さまに愚痴をぶちまけるのです。このお妃が仏の説法を聞き、浄土を願う者として再生していく話です。僕は自分の赤ん坊をこれから殺そうとしている人がいたら、「あなたはもう色々大変だったね」と言うと思います。ちょっと話聞かせてくれないかと。赤ん坊だけを助けても、結局この両親が地獄に落

ちているのです。自分の都合で自分の子供や親を、あるいは自分をも殺さねばならないような地獄を心に抱えているのが私たちです。みんなです。そういう私たちの闇が確かに闇と受け止められ、闇を抱えたままで共に歩いていける、それが仏教なのではないでしょうか。この話が經典になったということは、親と子にある深い闇は普遍的な人間の課題であるということです。この活動で、どんなに綺麗ごとを言っても一食差し上げたぐらいでは何にもできていないことを痛感します。

獲得した人のことだと思ふのです。私たちがそうはなれません。必ず依存し、人目をいつも気にしてドロドロしたものを抱えて生きていなくてはならず、結局それとの戦いの連続です。劣等感と優越感と、常にこの間で右往左往して生きています。仏教がずっと課題にしてきたことですね。

分を見下ろすか、見上げるか、このどっちかなんです。逃げ場がありません。仏教はどちらにしても「慢」なんです。そういう言葉がちゃんと仏教には用意されています。考えたり悩んだりしても、私たちはそのどちらかにしか行かないんですよ。ですから、その時に初めて私たちは何を振り所にするのかということが問題になってきます。

この活動も、僕自身が仏教を学んでいくことと別のことではないと思います。僕が教える側とか、してあげる側ではなくて、僕も一緒に助かる側なんです。僕が助かることが、結局みんなが助かるという、そこを外すと胡散くさい社会活動になると思います。社会に評価されたいという根性、承認欲求というものは人が陥りやすい、すごく根深く危険なものです。仏さまは、完全に目覚め主体性を



僕さまが亡くなられる時に法を振り所にして、それ以外のものを頼るなど論されました。結局自分が何をしているのだろうという時に、どうしてもいやらしい根性がなくならない自分がいることに気づきながらも、やるしかないのです。本当に綺麗にはいかないものです。でも嘘のない明らかにしてくださる言葉が仏さまの教えにはあるのです。どうしても仏になれない自分を知り、そして不純なものを取り去ったら純粋な私が残るなどという話は、決して浄土真宗には無いし、そういうことは決して起こらないですね。

蓮の花は綺麗な、高原の陸地には咲かない、卑湿の汚泥、ぐじやぐじやの泥の中に咲くのです。綺麗でない所、そこで聞くことができるのが仏教の教えなのかなと思うのです。私たちは仏の話や聞くと、悟りの側に仏の側に片足をかけようとしています。仏の側から何か語ろうとするのですけど、そういうことを一切しなかったのが親鸞という人なのです。一歩も仏の側に行かないのです。親鸞という人がそういう方だったのです。

自分を見続ける。しかし自分の目ではなくて、あくまで仏さまの眼差しをいただくのです。自分の目で自分を見るなんてことをしたら、自分を切り捨ててしまうことになりそうです。無理だし危ないですね。外へ目が向いたら他人を傷つけるでしょう。内に向かえば自殺です。外に向かえば殺人です。私が一人で悩んでも道はないのです。私たちはどこに振り所を見い出せばよいのでしょうか。そこで初めて、何のためにお寺

やお経は今日まであるのかということが大事になってきます。毎日幸せで、ご飯は美味しく、今日も元気いっぱい不安がないなという人の傍ではなく、やはり辛い思いをしたとか、苦しい悲しいという人の傍で聞かれてきた教えなのです。お寺は、この活動を通して、苦しんでいる一人一人の人間が一緒に教えを聞いていく場所なんだと、そう思うのです。

自分を見続ける。自分の目ではなく、仏さまの眼差しで自分を見るのです



かわうそ堂も取材して

末廣 綾

始終和やかな雰囲気です。子供たちもみな笑顔、非常に居心地の良い空間でした。食堂の開始当時は皆面識が無く、笑顔もなく、食事中も静かで堅苦しい雰囲気だったのですが、今ではお手伝いのお檀家の方とお母さんたちも皆一緒に配膳をし、談笑し、片付けも協力してするようになったそうです。私も一緒に食事をして、そして片付けのお手伝いをするので、子供たちは人懐こく話しかけてくれるようになり、まるでチームに入れてもらったようで、とても嬉しく胸がぽかぽかと温かくなりました。

食後は子供たちはじゃれ合ったり、走り回ったりととても楽しそう。そして大人たちに様々な報告をしていました。例えば、こんな苦手な科目があるんだという話から「じゃあ学習支援でそのフォローしてみよう」とか「今日はあの子が来てないね。ちょっと連絡とってみよう」など様々なことが和やかな談笑の中で決まっていくのです。

静岡仏婦の勸山副会長とサボぬまの方の話にも驚きました。最近沼津であった水害の話から、具体的な支援へと話が素早く決まってくる。静岡仏婦のライングループに支援依頼が投稿されると、すぐに支援へと繋がるそうです。例えば水害時に必要だったタオルなどはすぐに大量に回収出来たとのこと。次の課題は家電や布団など、生活に必要なけれども大きい物の回収。その対応策も相談されていました。

「かわうそ堂」は単に食堂ということだけでなく、子供たちや親御さんの安心出来る場所であり、相談できる場所でもあり、支援が一方向でなく、相互に繋がっているような温かい場所でした。それが「お寺」であることに希望を感じ、そして勸山師の綺麗ごとにしたくないと悩みながら、それでも行動し続けている姿に、私でも、もしかしたら何かできるのではないかと、そして一歩踏み出してみようかという勇気をいただいた取材になりました。

新年賀謹

今和六年 甲辰

<p>公益財団法人 日本仏教保育協会</p> <p>名譽会長 小澤憲珠 理事長 高山久照</p> <p>〒一〇五-〇〇〇-一 東京都港区芝公園四-七-四 ☎〇三-三四三二-七四七五</p>	<p>公益財団法人 仏教伝道協会</p> <p>会長 木村清孝 理事 生田忠士 理事長 沼田恵明 同 塩入亮乗 常務理事 青木晴美 同 逸見道郎 理事 門脇邦彦 監事 中野東禪 同 野村邦武 同 松村智司</p> <p>〒一〇八-〇〇〇-四 東京都港区芝四-三-一四 ☎〇三-三四五五-五八五一 URL: https://www.fdk.or.jp</p>	<p>全日本仏教青年会</p> <p>理事長 新井順證</p> <p>【事務局】〒五四三-〇〇五-一 四天王寺内 大阪市天王寺区四天王寺一-一-一八 ☎〇六-六七七-〇〇六六</p>	<p>全日本仏教尼僧法団</p> <p>総裁 鷹司誓玉 顧問 沢田教英 副総裁 日野西光尊 理事長 笹川悦導 顧問 青山俊董 役員 一同</p> <p>〒一六〇-〇〇〇-二 東京都新宿区新宿六-一五-一二 西光庵内 ☎〇三-三三〇〇-七八一一</p>
<p>公益財団法人 国際仏教興隆協会</p> <p>日本寺主 北河原公敬 理事長 中村康雅 事務総長 佐藤一彦 役員 一同</p> <p>〒一五三-〇〇〇-六 東京都目黒区中目黒五-二四-一五三 ☎〇三-三七二-一七六〇八 FAX 〇三-三七二-一七六七三 E-mail: jinkyo@shba.jp</p>	<p>一般社団法人 仏教情報センター</p> <p>理事長 白川淳敬</p> <p>〒一三一-〇〇三-三 東京都文京区本郷一-四-一六二-二〇二 ☎〇三-三三八-一三六五七七 FAX 〇三-三三八-一三六七九四</p>	<p>子ども支援ネットワーク</p> <p>公益財団法人 全国青少年教化協議会</p> <p>〒一〇四-〇〇四-五 東京都中央区築地三-七-一五 築地Aビル五F ☎〇三-三五四-一六七二五</p>	<p>世界連邦日本宗教委員会</p> <p>会長 田中恆清</p> <p>〒六一四-八五八-八 京都府八幡市八幡高坊三〇 石清水八幡宮内 ☎FAX 〇七五-九八一-三〇〇一</p>
<p>三十三間堂本坊 妙法院門跡</p> <p>門主 杉谷義純</p> <p>〒六〇五-〇九三-二 京都市東山区東山七条上ル ☎〇七五-一五六-一〇四六七 FAX 〇七五-一五六-一六六九八</p>	<p>本山修験宗総本山 聖護院門跡</p> <p>門主 宮城泰年</p> <p>〒六〇六-八三三-四 京都市左京区聖護院中町一五 ☎〇七五-一七七-一八八〇</p>	<p>一般社団法人 日本仏教鑽仰会</p> <p>代表理事 中山斉栄</p> <p>〒一七四-〇〇四-一 東京都板橋区舟渡四-一五-一 ☎FAX 〇三-三九六七-三二八八</p>	<p>一般財団法人 京都仏教会</p> <p>理事長 有馬頼底 事務局長 長沢香静</p> <p>〒六〇二-〇八九-八 京都市上京区今出川通烏丸東入 相國寺門前町六三六一-一 ☎〇七五-一三三-一六九七五</p>

〈順不同〉

新年賀謹

今和六年 甲辰

<p>公益財団法人 全日本仏教会 WEB: 世界仏教徒連盟日本センター</p> <p>会長 大谷暢裕 理事長 里雄康意</p> <p>〒一〇五-〇〇二 東京都港区芝公園四-七-一四 ☎〇三-三四三二-七四七五 URL: https://www.jbfa.or.jp E-mail: info@jbfa.or.jp</p>	<p>曹洞宗宗務庁</p> <p>管長 石附周行</p> <p>宗務総長 服部秀世 教化部長 深川典雄 参議 熊谷紘全 教学部長 龍谷顯孝 参議 渡邊義弘 出版部長 倉内泰雄 人事部長 波部卓史 財政部長 近藤龍法 総務部長 松原道一 伝道部長 戸田光隆</p> <p>〒一五八-四四四 東京都港区芝一-五-一二 ☎〇三-三四五五-四四一一 URL: https://www.sotozen-net.or.jp</p>	<p>浄土宗</p> <p>宗務総長 川中光教</p> <p>〒六〇五-〇〇六-二 京都市東山区林下町四〇〇-一八 ☎〇七五-一五二-二二〇〇代</p>	<p>日蓮宗宗務院</p> <p>宗務総長 田中恵紳</p> <p>〒一四六-八五四-四 東京都大田区池上二-三-一一五 ☎〇三-三三三-七五一一七-一八 FAX 〇三-三三三-七五一一七-一八 URL: https://www.wandhonen.or.jp</p>
<p>天台宗</p> <p>宗務総長 阿部昌宏</p> <p>〒五二〇-〇一三-三 滋賀県大津市坂本四-一六-一二 ☎〇七五-一五七-九〇〇二二</p>	<p>真言宗智山派宗務庁</p> <p>宗務総長 芙蓉良英</p> <p>〒六〇五-〇九五-一 京都市東山区東大路通り七条下ル 東瓦町九六四 ☎〇七五-一五四-一五三六一</p>	<p>真言宗豊山派宗務所</p> <p>宗務総長 鈴木常英</p> <p>〒一〇二-〇〇二-二 東京都文京区大塚五-四-〇一八 ☎〇三-三九四-五〇六三九代 FAX 〇三-三九四-五〇七〇二</p>	<p>東京都仏教連合会</p> <p>会長 田中昭徳 理事長 三吉廣明</p> <p>〒一一一-〇〇三-六 涼源寺内 東京都台東区松が谷二-一-九一七 ☎〇三-三三四-四一九五九七</p>
<p>一般財団法人 京都仏教会</p> <p>理事長 有馬頼底 事務局長 長沢香静</p> <p>〒六〇二-〇八九-八 京都市上京区今出川通烏丸東入 相國寺門前町六三六一-一 ☎〇七五-一三三-一六九七五</p>	<p>愛知県仏教会</p> <p>会長 岩木涼山</p> <p>【事務局】〒四七〇-一二〇-三 祐蔵寺内 豊田市幸町寺前六八 ☎FAX 〇五六五-一四-一五五四四</p>	<p>一般財団法人 埼玉県佛教会</p> <p>会長 倉持秀裕</p> <p>〒三三〇-〇〇六-三 さいたま市浦和区高砂四-一三-一八 ☎〇四八-八六一-二二三八</p>	<p>大阪府佛教会</p> <p>会長 村上廣甫 事務局長 二上寛弘</p> <p>【事務局】〒五五二-〇〇二-一 大阪府港区築港二-一三-一三 釈迦院内 ☎〇六-一六五-七一五七一〇</p>

〈順不同〉

謹賀新年

令和六年 甲辰

<p>真言宗智山派 大本山 成田山新勝寺</p> <p>貫首 岸田照泰</p> <p>〒二八六一〇〇二三 千葉県成田市成田一番地 ☎〇四七六一二二二二二</p>	<p>真言宗須磨寺派 管長 小池弘三</p> <p>〒四六八八五七六 東京都大田区池上一一〇一 ☎〇三三三三三三三三三 FAX 〇三三三三三三三三〇</p>	<p>真言宗智山派 大本山 高尾山薬王院</p> <p>貫首 佐藤秀仁</p> <p>〒一九三二八六八六 東京都八王子市高尾町二二七七 ☎〇四二一六六一二二二五</p>
<p>孝道山本仏殿</p> <p>〒二二一〇〇六四 神奈川県横浜市神奈川区鳥越三八番地 ☎〇四五一四三二二二〇</p>	<p>京都 音羽山清水寺</p> <p>貫主 森清範</p> <p>〒六〇五〇八六二 京都市東山区清水一丁目二九四 ☎〇七五二五五二二二三四</p>	<p>真言宗中山寺派 大本山 中山寺</p> <p>〒六六五二八五八八 兵庫県宝塚市中山寺二丁目一一一 ☎〇七九七二八七〇〇二四</p>
<p>大雄山 最乗寺</p> <p>山主 増田友厚</p> <p>〒二五〇一〇三七 神奈川県南足柄市大雄町一一五七 ☎〇四六五二七四一三二二一 FAX 〇四六五二七三二二四六</p>	<p>真言宗御室派 管長 瀬川大秀 宗務総長 大林實温</p> <p>〒六一六二八〇九二 京都市右京区御室大内三三三 ☎〇七五二四六一一一一五五 FAX 〇七五二四六四一四〇七〇</p>	<p>天台真盛宗 総本山 西教寺</p> <p>〒五二〇一〇一三 滋賀県大津市坂本五丁目二二二 ☎〇七七二五七八一〇〇二三代</p>

〈順不同〉

謹賀新年

令和六年 甲辰

<p>浄土宗総本山 知恩院門跡</p> <p>浄土門主 伊藤唯眞</p> <p>〒六〇五二八六八六 京都市東山区林下町四〇〇 総本山知恩院内 ☎〇七五二五三二二二二二</p>	<p>浄土宗大本山 善光寺大本願</p> <p>法主 鷹司誓玉</p> <p>〒三八〇一〇八五一 長野市元善町五〇〇 ☎〇二六一三三四一〇一八八 FAX 〇二六一三三四一〇一八六</p>	<p>浄土真宗東本願寺派 本山 東本願寺</p> <p>法主 大谷光見</p> <p>〒一一一〇〇三五 東京都台東区西浅草一五五 ☎〇三三三三三三三三三三三</p>
<p>天台宗 三千院門跡</p> <p>門主 小堀光實</p> <p>〒六〇一一二四二 京都市左京区大原来迎院町五四〇 ☎〇七五二七四四二五三二 FAX 〇七五二七四四二四八〇</p>	<p>法興山 中宮寺</p> <p>門跡 日野西光尊</p> <p>〒六三六一〇一一一 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺北一一一 ☎〇七四五一七五二二〇六 FAX 〇七四五二七四二九五六</p>	<p>曹洞宗大本山 永平寺</p> <p>貫首 南澤道人</p> <p>〒九一〇一二九四 福井県吉田郡永平寺町志比 ☎〇七七六二六三三三〇二</p>
<p>日光山 輪王寺門跡</p> <p>門主 石塚慈雄</p> <p>〒三二一一四九四 栃木県日光市山内二二〇〇 ☎〇二八八二五四一〇五三一</p>	<p>山村御殿 圓照寺</p> <p>門跡 萩原道秀</p> <p>〒六三〇一八四三四 奈良県奈良市山町一三二二 ☎〇七四二一六一一七六〇〇</p>	<p>曹洞宗大本山 總持寺</p> <p>貫首 石附周行</p> <p>〒二三〇一〇六三 神奈川県横浜市鶴見区鶴見二一一 ☎〇四五二五八一一六〇二二</p>
<p>聖観音宗 浅草寺</p> <p>貫首 田中昭徳</p> <p>〒一一一〇〇三二 東京都台東区浅草二二二二 ☎〇三三三三三三三三三三三 FAX 〇三三三三三三三三三三三</p>	<p>真言宗智山派 大本山 川崎大師平間寺</p> <p>貫首 藤田隆乗</p> <p>〒二一〇一八五二 神奈川県川崎市川崎区大師町四二四八 ☎〇四四二二六六一三三四二〇</p>	

〈順不同〉

新年 賀 謹

令和六年 甲辰

住職 高山久照 〒一七九一〇〇七四 東京都練馬区春日町三二二二 ☎〇三三三九九八一二六二	住職 妙智會教団 〒一五一〇〇五三 東京都渋谷区代々木三三三三 ☎〇三三三三七〇一五四〇三 FAX 〇三三三三七〇一五四〇三	真言宗豊山派 寿福寺 〒一三五〇〇二二 東京都練馬区三好一六二 ☎〇三三三三六四一五八四八	真言宗智山派 妙清寺 〒一〇〇〇一五 東京都台東区東上野六一八一七 ☎〇三三三三八四四一四三八九	浄土宗 梅窓院 住職 中島真成 〒一〇七〇〇六二 東京都港区南青山二二六三三 ☎〇三三三三四〇四一八四四七 URL: http://www.baisoin.or.jp/	浄土真宗東本願寺派 妙清寺 住職 本多良之 〒一〇〇〇一五 東京都台東区東上野六一八一七 ☎〇三三三三八四四一四三八九	神田寺 真理舎 住職 友松浩志 〒一〇一〇〇二二 東京都千代田区外神田三一四一〇 ☎〇三三三三五一一八六八三	真言宗智山派 寶光院 住職 大橋尚玄 〒三二九一〇五二四 栃木県河内郡上三川町多功一八八八 ☎〇二八五五三三〇三八二 FAX 〇二八五五三三〇三八二	長谷川法律事務所 代表取締役 荒川昌夫 〒一〇五〇〇〇一 東京都港区虎ノ門五二一三一 虎ノ門四〇MTビル七階 ☎〇三三三三四四〇一一六三
住職 海老塚和秀 〒七八一八二二五 高知県高知市五台山三五七七 ☎〇八八八八二二〇八五 FAX 〇八八八八四一九八九三	深沢綜合法律事務所 弁護士 柴田龍太郎 〒一七〇一六〇二二 東京都豊島区東池袋三二一 サンシャイン60二階二二五号 ☎〇三三三三九八三一二二六	真言宗智山派 五台山竹林寺 住職 四国八十八ヶ所霊場会 土佐部会長 海老塚和秀 〒七八一八二二五 高知県高知市五台山三五七七 ☎〇八八八八二二〇八五 FAX 〇八八八八四一九八九三	株式会社経営総合研究所 園長 花岡義樹 副園長 花岡宏樹 〒三三三〇八〇七 栃木県小山市城東五一二二〇 ☎〇一八五一一五一一三三三三 FAX 〇一八五一一五一一七七三 URL: https://www.umgahara.ed.jp umgahara@umgahara.ed.jp					

〈順不同〉

新年 賀 謹

令和六年 甲辰

日蓮宗本山 大坊本行寺 貫首 中野日演 〒一四六一〇〇八二 東京都大田区池上二一〇一五 ☎〇三三三七五二一〇一五五 FAX 〇三三三七五二一〇一五五	真言宗智山派 上品蓮台寺 住職 高井隆成 〒六〇三三八三〇三 京都市北区紫野十二坊町三三一 ☎〇七五二四六一二二三九	宗教法人 傳通院 貫主 麻生諦善 〒一一一〇〇〇二 東京都文京区小石川三一四一六 ☎〇三三三八一四一三七〇一	真言宗智山派 田無山總持寺 住職 小峰立丸 〒一八八〇〇一一 東京都西東京市田無町三二八一二 ☎〇四二一四六一〇〇四四	西新井大師 總持寺 貫首 濱野堅眞 〒一二三〇八四一 東京都足立区西新井一一一五一 ☎〇三三三八九〇一三四五	別格本山 大須觀音寶生院 貫主 岡部快圓 〒四六〇〇〇一一 名古屋市中区大須二二二一四七 ☎〇五二二三二一六五二五 FAX 〇五二二三二一六五二五	聖観音宗 浅草寺 執事長 守山雄順 〒一一一〇〇三二 東京都台東区浅草二一三一 ☎〇三三三八四一〇一八一一代	真言宗智山派 慈眼寺 徳川將軍家日光社參御昼食所 住職 上野法忍 〒三二九一〇四一四 栃木県下野市小金井一二二六一二 ☎〇二八五二四四一三二一六	天台宗 三徳山三佛寺 住職 米田良中 〒六八二一〇三二 鳥取県東伯郡三朝町三徳一〇一〇 ☎〇八五八一四三二二六六六	別格本山 金剛院 住職 山田一能 院主 山田一眞 〒一九二〇九〇二 東京都八王子市上野町三九一二 ☎〇四二一六二一九五四〇	浄土宗 淨眞寺 住職 清水英碩 〒一五八一〇〇八三 東京都世田谷区奥沢七四一三 ☎〇三三三七〇一一二〇二九	国宝白鳳仏・厄除元二大師 天台宗別格本山 深大寺 〒一八二一〇〇一七 東京都調布市深大寺元町五二一五二 ☎〇四二一四八六二五五二一
---	--	--	---	--	--	--	---	---	--	---	---

〈順不同〉

新年賀謹

甲辰 令和六年

<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>理事 松井百合子</p> <p>〒二七二〇一四四 新井寺 千葉県市川市新井一〇九一 ☎〇四七―三五七―八三一 FAX 〇四七―三五七―八三九</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>理事 大橋百合子</p> <p>〒三二九一〇五二 四 栃木県河内郡上三川町多功一八八八 ☎〇二八五―五三三―八八〇</p>	<p>真言宗智山派 寶光院 公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>理事 大橋百合子</p> <p>〒三二九一〇五二 四 栃木県河内郡上三川町多功一八八八 ☎〇二八五―五三三―八八〇</p>	<p>天台宗寺院婦人連合会顧問 公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>常務理事 米田陽子</p> <p>〒六八二一〇一三 二 鳥取県東伯郡三朝町三徳一〇一〇 ☎〇八五八―四三三―二六六六</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>常務理事 桶屋良法</p> <p>〒五三八一〇〇五 四 念法眞教 総本山金剛寺 大阪市鶴見区緑三丁目四番二二号 ☎〇六六九―一一二―一〇一 FAX 〇六六九―一一七―六六七</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>理事 村主みや子</p> <p>〒六六五一〇八六 一 中山寺総持院 兵庫県宝塚市中山寺二一―一―一 ☎〇七七七―八一―〇〇六五</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>維持会員 日比野郁皓</p> <p>〒一一一〇〇五 一 東京都台東区蔵前三二二二一九 ☎〇三三―三八五―一四七二九 FAX 〇三三―三八五―一九七七〇</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>維持会員 平林宣子</p> <p>〒一三三三〇〇五 二 東京都江川区東小岩二二二四 ☎〇三三―三六七―二四九三五</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>維持会員 湯浅正江</p> <p>〒二八六一〇〇二 一 千葉県成田市土屋八 ☎〇四七六―一三二―一三四一</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>理事 湯浅正江</p> <p>〒二八六一〇〇二 一 千葉県成田市土屋八 ☎〇四七六―一三二―一三四一</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>公認会計士 木村匡成</p> <p>〒一五一一〇〇五 一 東京都渋谷区千駄ヶ谷四一五一―一〇 ☎〇三三―五七七―二〇六七七</p>	<p>静岡県仏教婦人会</p> <p>会長 村松小鶴枝</p> <p>〒四三九一〇〇三 七 静岡県菊川市西方三七八〇―一 ☎〇五三七―三五一―二九三九</p>	<p>株式会社大陸旅遊</p> <p>取締役営業部長 永田政夫</p> <p>〒一六九一〇〇七 五 東京都新宿区高田馬場一―三二―一八一九二五 ☎〇九〇―二二五―一四〇九一</p>
---	--	---	--	---	--	--	---	---	---	--	---	--

〈順不同〉

新年名刺交換のお願いを申し上げます。多くの方々よりお申込み頂きます。厚く御礼申し上げます。茲に掲載誌をお送り申し上げます。御礼にかえさせていただきます。

新年賀謹

甲辰 令和六年

<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>会長 東伏見具子</p> <p>〒六〇五一〇〇三 五 京都市東山区粟田口三条坊町 六九一―一 青蓮院門跡 ☎〇七五―五六一―二三四五</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>副会長 加用稔子</p> <p>〒七三〇一〇〇四 一 広島県広島市中区小町二二―一 ☎〇八二―二四一―七四七一</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>副会長 吉田真理</p> <p>〒七三九一〇五九 一 広島県廿日市市宮島町二二―一〇 ☎〇八二―九一四―四一〇一</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>顧問 林恵智子</p> <p>〒三五九一〇一一 六 埼玉県所沢市東町二四―一 ☎〇九〇―一五五―〇〇一三四九四</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>参与 末廣久美</p> <p>〒一一一〇〇〇〇 一 東京都台東区谷中七―一四―八 ☎〇三三―三八二―一四四七四</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>参与 鈴木トヨ子</p> <p>〒一六八一〇〇七 四 東京都杉並区上高井戸一―二七―一五 ☎〇三三―三三〇―二五八六七</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>参与 鈴木トヨ子</p> <p>〒一六八一〇〇七 四 東京都杉並区上高井戸一―二七―一五 ☎〇三三―三三〇―二五八六七</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>理事 花岡眞理子</p> <p>〒三三三一〇八〇 七 栃木県小山市城東五―一―一〇 ☎〇二八五―二五―一三三三三</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>常務理事 遠賀令子</p> <p>〒一四〇一〇〇一 五 東京都品川区西大井五―二二―二五 ☎〇三三―三七七―一四八一六</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>常務理事 本多端子</p> <p>〒一一一〇〇〇一 五 東京都台東区東上野六―一八―一七 ☎〇三三―三八四―四三八九</p>	<p>公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>副理事長 梨本三千代</p> <p>〒二七三一〇八五 三 千葉県船橋市金杉六―二五―一 ☎〇四七―四四八―二八三三</p>	<p>御瀧不動尊 金蔵寺 公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>副理事長 梨本三千代</p> <p>〒二七三一〇八五 三 千葉県船橋市金杉六―二五―一 ☎〇四七―四四八―二八三三</p>	<p>真言宗智山派 竹林寺 公益社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>常務理事 海老塚るり子</p> <p>〒七八一―八一―二五 高知県高知市五台山三五七七 ☎〇八八―八八二―三〇八五</p>
---	--	---	--	--	--	--	---	--	---	--	--	---

〈順不同〉

あおぞら奨学基金



皆様のあたたかいご支援が

こんなにも役立っています!

あおぞら奨学生からのお便り

アルバイトをしながらテスト勉強も両立することは大変ですが、とても充実した日々を過ごしております。アルバイト先の回転寿司チェーン店へ、1年生の後輩が新たに加わりました。先輩と後輩の関係はとても良好です。私が思い描いていた学校生活が送れていると自負しております。この先も、後輩達に寄り添い、先輩として学校の名に恥じぬよう、皆を引っ張って行こうと思います。

定時制高校2年生 女子

全国青少年教化協議会との共同事業で、東日本大震災（平成23年・2011年）で被災した進学や就職を希望している高校生の授業以外に、必要な学習費用を1年12万円（1か月1万円）支給してきました。当連盟では現在東北の高校生4名と今年度からウクライナの高校生1名と中学生1名を支えています。昨年8月に6名の生徒さんからお便りが届きましたのでご紹介いたします。

私は建築士になりたいと思っており、いただいた奨学金は、これから受ける検定の代金や参考書代に使わせていただきたいと思います。これからもご支援いただけるように頑張りますのでよろしく願いいたします。

高校2年生 男子

ご支援のおかげで高校卒業、大学進学に向けて積極的に勉強に取り組んでいます。私は大学に進学し、将来は街のみんなに頼ってもらえる市役所職員になりたいので勉強を毎日継続して頑張っています。私は英語と数学が苦手なのでこれから得意になれるように毎日一時間ずつ勉強しようと思います。

高校3年生 女子

お陰様で私も高校3年生になり、3年間続けてきたバスケットボール部の進路決定に向けて日々を送っています。私は人とコミュニケーションをとることが好きなので将来はサービスクの仕事に就きたいと考えています。そしていつか誰かの力になりたいと思います。9月からの就職試験本番に向けて頑張り、悔いの無い高校生活を送りたいと思います。

高校3年生 男子



奨学金のおかげでウクライナ避難民の私は経済的に安定し、日本の生活の基本的なものは賄えるという自信を得ることができました。夏休みは学校で過ごすつもりです。日本語のスキルをさらに向上させ、より創造的になりたいと思います。私の将来の計画は、アニメーターとして日本の大学に入学することです。現在京都の大学に進学することを検討中です。今後の私の日本の生活は奨学金なしでは考えられませんが、国の家族も日本での私の生活を心から喜んでくれています。

高校2年生 女子

私は中学校で、数学、理科、英語、国語など、日本人と一緒に熱心に勉強しています。私もこの学校の吹奏楽部で、アルトサクソと、ときどきエレキギターを演奏します。日本語をいっしょに勉強します。そして秋には吹奏楽コンクールに出場することになり、サクソスを吹きます。それに向けて練習を頑張ります。いつもありがとうございます。

中学3年生 男子

全青協・日仏保・全仏婦

「ひまわりプロジェクト」始動

「子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン」をともに行っている（公社）日本仏教教育協会（公社）・全日本仏教婦人連盟に呼びかけ、三団体が協働して、2022年秋よりウクライナの子どもたちの支援を開始しました。

昨年7月31日には、石川校から3名の高校生らを招き、支援報告会を開催すると共に、ウクライナから日本へ避難している子どもたちのサポートを呼びかけるキャンペーン「ひまわりプロジェクト」をキックオフしました。

ひまわりプロジェクトによる当面の支援内容は次の4項目となっています。

- ① 就学支援：一時金の支援（各10万円）
- ② 月1万円の奨学金支援
（令和5年4月より高等学校卒業時まで）
- ③ 日本文化体験及び青少年交流
- ④ 高等教育進学支援

古今東西を問わず、子どもたちが将来にわたり充実した生活環境を得るためには、教育がとても重要です。教育の機会を得られるか得られないかによって、子どもたちの人生は全く異なったものとなっていきます。衣食住は生活環境の基盤ですが平和を構築する視座と対話の力をも身につけるためにも、教育は不可欠なものです。

日本に避難している446名の子どもたちすべてが、充実した教育を受けることのできる環境を、ひまわりプロジェクトでは提供していきたいと考えています。

多くの方々のご関心とご支援をお待ちしております。（全青協びっばら11-12月号より）

（当連盟で支援をしている女子生徒のお礼の手紙を紹介いたします。）

リスビナ・マリア

東京や鎌倉で皆様と一緒に時間を過ごすことができ、本当に嬉しかったです。新しく刺激的なものをたくさん見ることができて、とても幸せでした。そしてウクライナ人同士の間にはより緊密で温かいものとなりました。とても興味深い場所を教えていただきありがとうございます。東京タワーは美しく、こんなに高いところに行ったのは初めてで、鳥が飛ぶのに匹敵するほどでした。私たち三人は夕食のレストランにとっても驚きました。このレベルのレストランに行ったことはなく、マナーについて非常に心配していましたが、寺院や大仏を訪れるのもとても興味深く、本当に素晴らしかったです。とても穏やかで、何か神聖な雰囲気が漂っていました。報告会当日は、みんなとても不安でしたが、間違わないように気を付けていたのですが（結果は悪かったです）、私にとっては大きな試練であり、自信への新たな突破口となりました。スピーチの後、私はもっとできることがあり、この世界の多くのことに対処できると感じ始めました。温かい思い出をありがとうございました。関わって下さったすべての皆様に感謝申し上げます。本当に私たち全員にとってとても大切な旅行でした。

入会へのおすすめ

2013年4月より公益法人としてスタートいたしました。

私たちは、仏教精神によって組織されている各種の仏教団体と連携しながら、全ての人々が国家や民族、宗教、言語、文化の違いを超えて共生し、人々の尊厳が実現するよう、婦人の立場から社会および家庭生活に寛容精神を培い、国内外の福祉向上に寄与することを目的としております。

ぜひ会員として、目的達成のために活動を共にし、ご協力をお願いいたしたく入会のおすすめを申し上げます。

1、会費、入会金を添えて申込書にご記入の上お申し込み下さい。

会員の種類	年会費	入会金
① 正会員（個人）	10,000円	5,000円
② 維持会員 （正会員で別途維持会費を納めた会員）	40,000円	5,000円
③ 団体・法人会員	50,000円	5,000円
④ 賛助会員	50,000円（1口以上）	

2、会員の特典

会員に対しては連盟が開催する各種の会合及び事業のご案内をいたします。

- イ、各協力団体への研修会等参加及び協賛。
- ロ、古寺めぐり等文化事業に参加。
- ハ、機関誌「全佛婦」「沙羅の樹」の送付。
- ニ、社会福祉事業（救援事業・被災地支援等）。
- ホ、「子どもたちの未来のために」（環境・教育問題）。

3、詳細は事務局へお問い合わせ下さい。

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-5-10

☎ 03 (5772) 0677 🌐 <http://jbwf.jp>

末廣久美元理事長が 文化庁長官表彰を受賞

令和5年12月19日、
京都ブライトンホテルにて受賞式執り行わる

末廣さんは平成13年から10年間、全日本仏教婦人連盟の副会長を務め、後に理事長となり、日本宗教連盟、全日本仏教会、国際仏教興隆協会の役職、さらに宗教審議会の委員を務めあげました。その間当連盟の事業として、インド、ブッダガヤの日本寺境内にある光明施療院への支援、また全国青少年教化協議会との共催による東日本大震災被災青少年のための「あおぞら奨学基金」ほか、多くの国内外の被災地への救援事業を展開し、現在も継続しております。また文化講座やチャリティ公演の開催など文化的な活動にも勤しみ、令和元年に理事長を退任し、参与となっております。

目的

文化庁長官表彰は「文化活動に優れた成果を示し、我が国の文化の振興に貢献された方々、又は、日本文化の海外発信、国際文化交流に貢献された方々に対し、その功績をたたえ文化庁長官が表彰する。」が目的とされています



お礼のご挨拶



このような表彰をいただくこと、とても光栄に存じております。宗教界での女性の受賞は今回が初めてと承りました。

きっと私個人への授賞というのではなく、宗教活動を通して、各寺院や教会で檀信徒のお世話や子ども食堂また様々な教室の運営など、社会や地域のための活動をしている多くの女性たちへの、「がんばれ」「期待しているぞ」と

いうエールの授賞ではないかと思っています。

経歴として挙げられた各諸役はみな理事長としての勤めであり、社会福祉や国際協力への評価は、各関係諸団体と共に、励み活動して築き上げてきた結果だと思っています。

諸団体の皆様におかれましては、長年活動を共にし、ご指導を賜ったことに心より感謝申し上げます。仏婦の皆さんは連盟の地道な活動が評価されたことにどうぞ自信をもっていただき、今後も益々ご活躍をなさることを心より願っております。

- 8月 August**
- 4日 宗教サミット 36周年・第37回「世界平和祈りの集い」(比叡山延暦寺)
 - 10日 「全佛婦」137号発行
 - 21日 全日本仏教青年会理事長・事務局局長来局(事務局)
- 9月 September**
- 11日 (公財)全日本仏教会第2回総務財政審議会(明照会館)
 - 19日 第2回運営委員会並びに第4回大会実行委員会(代々木会議室)
 - 28日 第47回正力松太郎賞授賞式・祝賀会(東京グランドホテル)
- 10月 October**
- 5日 第5回大会実行委員会(帝國ホテル東京)

仏婦 NEWS抄

私たちの
日々のあゆみ
2023年10月~12月

- 11月 November**
- 7日 一般社団法人仏教情報センター1設立40周年記念大会(築地本願寺)
 - 20日 全日本仏教青年会新井順證理事長就任祝賀会(ホテル日航大阪)
 - 22日 第58回大阪府佛教徒大会(ホテル日航大阪)
 - 27日 第33回理事会(代々木会議室)
- 12月 December**
- 4日、10日 印度山日本寺開山50周年記念式典と微笑みの国タイの旅
 - 5日 第35回成道会の集い(有楽町朝日ホール)
 - 18日 新年修正会打合せ(ホテル雅叙園東京)
 - 19日 末廣久美元理事長、文化庁長官表彰受賞式(京都プライトンホテル)
 - 22日 (公財)全日本仏教会第4回総務財政審議会(明照会館)
 - 27日 「全佛婦」発送
 - 28日 仕事納め

事務局 だより



全日仏婦事業に多くの方々よりご協力いただきありがとうございます。それぞれの事業に活用させていただきますので、どうぞ今後ともよろしく願っています。
12月15日現在(順不同・敬称略)

- 12月 December**
- 4日、10日 印度山日本寺開山50周年記念式典と微笑みの国タイの旅
 - 5日 第35回成道会の集い(有楽町朝日ホール)
 - 18日 新年修正会打合せ(ホテル雅叙園東京)
 - 19日 末廣久美元理事長、文化庁長官表彰受賞式(京都プライトンホテル)
 - 22日 (公財)全日本仏教会第4回総務財政審議会(明照会館)
 - 27日 「全佛婦」発送
 - 28日 仕事納め



【編集】
日比野郁皓
末廣綾
山口偉理子

【デザイン】
中野 妙
(合同会社まに)

- ▼**賛助金にご協力の方々**
真言宗智山派
大本山成田山新勝寺 中宮寺門跡
金剛院 東園寺 妙慶院
- ▼**社会福祉基金にご協力の方々**
千玄室 河原時子 本多端子
梨本三千代 安井豊子 多賀礼子
富田記代 鈴木トヨ子 逸見秀子
可睡齋
- ▼**写経運動にご協力の方々**
念法真教 村上和之 佐々木公子
高崎悦子 海老名初江 高橋節子
- ▼**あおぞら奨学基金にご協力の方々**
山居享子 佐々木公子
- ▼**「全佛婦・沙羅の樹」誌代にご協力の方**
本多端子

information

新年修正会

日時：令和6年2月19日(月)

品川区西大井の通称「大井のおおぼとけ」と呼ばれている天台宗養玉院如来寺様を参拝後、ホテル雅叙園東京にて法要・懇親会を開催

会場：ホテル雅叙園東京
東京都目黒区下目黒1-8-1
☎03-3491-4111(代)

文化講座

第127回

日時：令和6年1月29日(月)
14:00~15:00

会場：本山東本願寺(浅草)
〒111-0035
台東区西浅草1-5-5
☎03-3843-9511

講師：ペレラ雅子氏
(スリランカ大使夫人)

演題：「外から見た日本」

日本における男女共同参画は世界でどれ位の位置なのか。日本においてどうして外国語が必要なのか。浄土真宗のお寺に生まれ育ち、現在大使夫人のペレラ雅子氏のお話です。

第128回予定

日時：令和6年3月11日(月)

会場：牛久大仏参拝、昼食、
あみプレミアム・アウトレット

*詳細は順次ご案内いたします

第35回成道会の集い

12月5日(火)有楽町マリオン朝日ホールにて東京都仏教連合会主催、全日本仏教婦人連盟後援による成道会が開催されました。

第一部の東京都仏教連合会田中昭徳会長法要の下に当連盟六名の有志で献灯、献花、献香のお役を勤めさせていただきました。

第二部は「仏教的な生き方」と題し、大正大学特任准教授木内堯大師が講演され、続いて、第三部は長唄演奏家小塚希帆氏が「日本の声境界なき祈りと唄」の



お話と唄と演奏を楽しみました。なお、当日は250名の参加者でした。

印度山日本寺開山 50周年記念式典



印度山日本寺開山 50周年記念式典

—ともに平和を願って—

昨年12月4日から12月10日まで国際仏教興隆協会、日本仏教保育協会、全日本仏教婦人連盟の三団体で30名が記念法要と微笑みの国タイの旅に参加されました。

6日に日本寺開山50周年記念法要等、7日は菩提樹学園45周年、光明施療院40周年記念式典がありました。なお、皆様からお預かりいたしましたお写経は参加された方々に宝篋印塔に奉納していただきました。

ご報告は次号にてお知らせいたします。

